

簿をチエック!!



観覧席でサッカーの応援を(しんとう総合グラウンド)

第3回定例会は、9月4日から15日までの12日間の会期で開かれました。一般質問には、9人の議員が登壇し、上毛大橋からの延伸道、学校のICT環境、国民健康保険税、村の活性化等について質問しました。

また、平成28年度歳入歳出決算の認定、工事請負契約の締結、平成29年度一般会計・特別会計補正予算等の議案は、原案のとおり認定、可決しました。



議会で監査報告をした
岩崎唯雄
代表監査委員

**徴収対策の強化による
収入率90%超えを評価**

▼村税の収入額向上

一般会計の歳入決算額の約23%を占める村税は、前年度に比べ1・22ポイント向上しました。徴収対策の強化に取り組み、前年度に引き続き収入率が90%を超えていることを評価します。また、児童保育負担金も前年度に比べ収入未済額が減少しており、引き続き収入額向上の努力をしてください。

▼収入額の低調

住宅使用料は、収入未済額が毎年度増加しています。これまでの徴収体制及び徴収方法を抜本的に見直

し、早急に改善策を講じることが強く要望します。

▼歳出の増加

歳出は、前年度に比べ増加しています。今後も村債の元金償還開始などにより、増加が見込まれており、厳しい財政状況が続くものと想定されるため、効果的かつ効率的な事業執行に努め、より健全な財政運営を図ってください。

▼財源の有効活用

② 不用額は、増加となっています。抽出審査の結果、やむを得ない事案であると認めます。さらに精度の高

い予算編成と計画的な予算執行に努め、不用額が明らかになった場合は、速やかに補正処置を行うなど適切な対応を図り、財源の有効活用に努めてください。

▼今後の財政運営

今後の社会経済情勢の変化を的確に把握し、事業の見直し、効率的な歳出の削減及び地域資源の活用を図り、第6次総合計画の将来像「子どもに夢を みんなに福祉と安心を」を合い言葉に、村民の満足度が高まるような施策が展開されることを要望します。



不用額とは…予算に対し、使用しないで余ったお金のこと。

決算
認定

平成28年度

村の家計

28年度の主な事業

区 分	内 容	決 算 額
民 生 費	社会福祉(障害者福祉)、福祉センター温室等補修工事など	20億4546万円
総 務 費	コミュニティ供用施設改修工事、防犯カメラ新設工事など	12億5620万円
教 育 費	屋外運動場改修工事、教育施設防犯カメラ設置工事など	9億5431万円
農林水産業費	農業用水施設更新工事、創造の森給水施設改修工事など	4億8820万円
土 木 費	村道維持補修工事、2号・5号計画道路改良舗装工事など	4億4527万円
衛 生 費	住民健診、母子保健事業、ごみ処理負担金など	2億8461万円
消 防 費	消防施設、渋川地区広域市町村圏振興整備組合負担金など	2億3206万円
議 会 費	報酬、議員共済組合負担金、会議録委託など	8497万円
国民健康保険 特別会計	平均8.2%の保険料の引き下げなど	歳入 18億9676万円 歳出 17億3498万円
学校給食 特別会計	給食費の10%引き下げなど	歳入 1億3482万円 歳出 1億3475万円

決算認定の意義

一次的意義

決算を審査して、認定についての結論を出す第一の意義は、予算執行の結果を総合的に確認し、検証して予算効果と行政効果を客観的に判断する。この間、反省事項や改善事項をまとめる。村長はその後の予算編成と財政運営に活かし、議会は予算審議と財政運営の批判と指導に役立てる。

二次的意義

決算を認定することにより、村長の執行責任を村民に向かって解除する。

三次的意義

決算審査を行う議会を通じて村の財政の実態を知らせて理解を得る。

(出典：議員必携)

議長の常任委員会委員の辞任

総務産業建設常任委員会委員の議長は、その職務上どの委員会にも出席する権限を有している。また、可否同数の際の裁決権など議長固有の権限を考慮するとき、1つの委員会に所属することは適当でなく、また行政実例でも辞任が認められています。このことから常任委員会委員の辞任を議会に諮り決定しました。



南 千晴 議長

